

目次

はじめに

一 大内裏・朱雀大路周辺の風土

- | | | |
|---|---|----|
| 1 | 後宮——玉の輿の女君たち——
京都御所藤壺／京都御所の桂袴女人像／仙洞御所（土御門殿跡）の遺水／女房の局を訪れる貴族 | 10 |
| 2 | 清涼殿——帝の住まい——
京都御所清涼殿／身舎の御帳台（京都御所）／殿上間の日給の簡と櫺形の窓（京都御所）／年中行事の障子（京都御所）／滝口（京都御所） | 16 |
| 3 | 紫宸殿——内裏の正殿——
南殿の左近桜（京都御所）／承明門からみた南庭（京都御所）／「年中行事絵巻」における南庭／内裏の正門、建礼門（京都御所）／「年中行事絵巻」における建礼門 | 22 |
| 4 | 大極殿——絢爛たる公事の殿物——
大極殿を摸した平安神宮／大極殿前の舞／応天門を摸した平安神宮の神門／大極殿遺蹟碑 | 28 |
| 5 | 朱雀大路Ⅰ——船岡山・朱雀門・羅城門・東寺——
船岡山より朱雀大路を望む／大内裏の正門、朱雀門跡／「伴大納言絵詞」における朱雀門／平安京以来の東寺／平安京の入口、羅城門跡 | 34 |
| 6 | 朱雀大路Ⅱ——大学寮跡・曹司跡・神泉苑——
雨乞い祭のころの神泉苑／大学寮跡碑／藤原氏の勸学院跡／和気氏の弘文院跡 | 40 |
| 7 | 朱雀大路Ⅲ——朱雀院跡——
朱雀院内に祀られていたという隼神社 | 46 |

- 8 朱雀大路IV——鴻臚館跡——
東鴻臚館跡の現在地、島原角屋／東鴻臚館跡の碑
 - 9 冷泉院跡——秘め事を背負った冷泉帝の後院——
『源氏物語繪巻 鈴虫の巻II』に描かれた冷泉院
- ### 二 洛東の風土
- 1 紫式部邸跡——中川わたり——
廬山寺内紫式部邸跡
 - 2 愛宕——冥界への通い路——
珍皇寺の石仏／冥界への通い路伝説のある篁堂／六波羅蜜寺／清水寺
 - 3 鳥辺野陵——王朝の墓所——
一条天皇中宮定子陵／泉涌寺から望む鳥辺野陵／泉涌寺境内の清少納言供養塔と歌碑／鳥辺野陵への細い山道／夢の浮橋跡
 - 4 夕顔の宿——王朝庶民の生活圏——
下京区夕顔町の夕顔塚／夕顔塚碑
 - 5 河原院跡——その栄耀と荒廃——
枳殻邸の庭園／枳殻邸印池に立つ供養塔／「源融河原院址」碑／賀茂川の流れ／京都御所皇后御常御殿の「塩釜浦」図

三 洛北・北山の風土

- 1 雲林院のあたり——歌枕から地獄説話へ——
雲林院千手観音堂／白毫院にあったという紫式部墓／耶蘇会宣教師ルイス・フロイスの畏怖した引接寺の閻魔王／引接寺の紫式部供養塔
- 2 下鴨神社——光源氏が栄華を祈願——

- 3 上賀茂神社——御手洗川の清流——
賀茂祭の神託たる返祝詞／斎院が禊をする御手洗社前／御蔭祭における糺森切芝の東遊／高野川と賀茂川の合流点／下鴨神社流鏝馬神事
- 4 大雲寺と鞍馬寺——北山のながし寺——
上賀茂神社楼門／櫛の小川の御手洗／葵祭の行粧・上賀茂への道／斎王代の御輿／葵祭の走馬鞍馬寺の桜——五月満月祭近く——／わびしげな大雲寺／平安朝に造られた大雲寺梵鐘／鞍馬寺の涙の滝／つづら折りの鞍馬寺参道／鞍馬寺本堂から見た山桜——都は見えない——
- 5 貴船神社と日吉大社——若紫の故地——
貴船神社奥宮の参道／貴船神社の桂の大木／貴船神社奥宮の御船形石／日吉大社の山王鳥居／日吉大社の神輿
- 6 比叡山延暦寺I——夕顔の供養——
雪の根本中堂／西塔法華堂／東坂本慈眼堂内の紫式部供養塔／赤山禅院（皇城表鬼門）の屋根に座す神猿像／行者・神輿・勅使も通った京からの道、雲母坂
- 7 比叡山延暦寺II——横川僧都の世界——
山深い樹間に見え隠れする横川中堂／深山幽谷に抱かれた恵心院
- 8 小野の坂本——浮舟の隠れ里——
修学院離宮から北山を一望する／修学院離宮の御舟屋と土橋／修学院離宮の美しく配された稲田／南洲年名小野山荘跡に建つ赤山禅院／曼殊院の山門
- 9 大原——柏木末七人落葉宮の山荘——
紅葉に彩られた三千院宸殿／朝日に輝く雪の往生極楽院／往生極楽院の阿弥陀三尊／紅葉を流す音無の滝／大原の惟喬親王供養塔

四 洛西の風土

- 1 仁和寺——朱雀院の「西山なる御寺」——
仁和寺五重塔と御室桜／一条天皇陵から見た仁和寺、双が丘／仁和寺全景／法具に囲まれた仁和寺祈禱座／北西

142 141

134

128

124

118

112

106

100

94

88

87

80

76

70

64

60

59

54

50

2	琵琶湖南岸から石山寺へ——王朝貴族に愛好された参詣路——	242
1	逢坂の関跡——源氏と空蟬との再会——	236 235
6	京都を離れた近畿の風土	
5	宇治川の流れ——宇治の姫君たちの人生を語る——	222
4	宇治の川霧／宇治橋を守護する橋姫神社／宇治の網代／宇治橋の図（京都御所御常御殿襖絵）	228
4	彼の里と宇治の古蹟——宮廷人にとつての遠つ方——	222
4	西方浄土の現出、平等院／鳳凰堂の阿弥陀如来像／聖衆来迎を描いた扉絵／梵鐘の雲上仏	216
3	宇治川の流れ——宇治の姫君たちの人生を語る——	222
3	八宮の宇治山荘——菟道稚郎子の面影——	210
2	宇治山荘の春／菟道稚郎子陵／寝殿造りの宇治上神社拝殿／宇治神社拝殿／宇治上神社裏手の「総角」碑	210
2	宇治への途次——醍醐・本幡のあたり——	204
2	醍醐天皇陵山科陵／京都最古の醍醐寺五重塔／王朝庭園の面影を留める勧修寺の池／随心院の小野小町文塚／許波多神社の伝基経墓	204
1	宇治への途次——醍醐・本幡のあたり——	204
1	藤氏の氏寺・法性寺跡——薫君と浮舟の宇治行き——	198 197
5	洛南の風土	
10	石清水八幡宮と山崎——西国との連関——	190
9	大原野の名所——小塩山と業平伝説——	184
8	大原野神社——春日の神を分霊——	180
8	大原野神社——春日の神を分霊——	180
7	桂の院跡——王朝文学への憧憬——	176
6	小倉山周辺の寺々——念仏寺・二尊院・厭離庵・常寂光寺など——	170
6	化野念仏寺の石塔群／二尊院三条西実隆らの墓／常寂光寺「時雨亭」跡／中院山荘あたりという厭離庵／「源氏物語」を愛好した後嵯峨天皇と龜山天皇の御陵	170
5	清涼寺——光源氏の嵯峨の御堂——	164
5	清涼寺境内——愛宕山を背にした——／源融の宝篋印塔——棲霞観の主——／嵯峨天皇宝篋印塔と壇林皇后石造層塔／棲霞寺当初からの本尊と伝えられる阿弥陀如来	164
4	嵯峨の院跡・大覚寺・名古曾の滝跡——光源氏の仏教世界——	158
4	嵯峨天皇陵から一望した大覚寺、広沢池、双が丘／嵯峨天皇陵／大沢池から大覚寺を見る／大覚寺御所趾碑／石組の残る名古曾の滝趾碑	158
3	大堰の河畔——明石女君の別業——	152
2	嵯峨野野宮——齋宮潔斎の地——	148
2	野宮のシンボル黒木の鳥居	148
2	に鎮まる聖代の君主村上天皇の山陵	148
2	ユリカメメの群れる冬の大堰川／嵐山の桜を映す大堰川／紅葉まつりの今様舟／龜山離宮跡公園碑／嵐山を背景にした渡月橋	148

10	石清水八幡宮と山崎——西国との連関——	190
9	大原野の名所——小塩山と業平伝説——	184
8	大原野神社——春日の神を分霊——	180
8	大原野神社——春日の神を分霊——	180
7	桂の院跡——王朝文学への憧憬——	176
6	小倉山周辺の寺々——念仏寺・二尊院・厭離庵・常寂光寺など——	170
6	化野念仏寺の石塔群／二尊院三条西実隆らの墓／常寂光寺「時雨亭」跡／中院山荘あたりという厭離庵／「源氏物語」を愛好した後嵯峨天皇と龜山天皇の御陵	170
5	清涼寺——光源氏の嵯峨の御堂——	164
5	清涼寺境内——愛宕山を背にした——／源融の宝篋印塔——棲霞観の主——／嵯峨天皇宝篋印塔と壇林皇后石造層塔／棲霞寺当初からの本尊と伝えられる阿弥陀如来	164
4	嵯峨の院跡・大覚寺・名古曾の滝跡——光源氏の仏教世界——	158
4	嵯峨天皇陵から一望した大覚寺、広沢池、双が丘／嵯峨天皇陵／大沢池から大覚寺を見る／大覚寺御所趾碑／石組の残る名古曾の滝趾碑	158
3	大堰の河畔——明石女君の別業——	152
2	嵯峨野野宮——齋宮潔斎の地——	148
2	野宮のシンボル黒木の鳥居	148
2	に鎮まる聖代の君主村上天皇の山陵	148
2	ユリカメメの群れる冬の大堰川／嵐山の桜を映す大堰川／紅葉まつりの今様舟／龜山離宮跡公園碑／嵐山を背景にした渡月橋	148

石山寺から瀬田川橋を望む／雪の石山寺／近江国衙跡から瀬田川方向を望む／石山寺本堂内紫式部源氏の間／石山寺紫式部供養塔

3 初瀬寺——観音の靈験を求めて——

本堂から奥の院方向を望む／古歌に名高い二本の杉／定家供養塔／玉鬘伝説を留める苔の下水／椿市への道

4 吉野金峯山寺と吉野川——厳格な御嶽精進——

吉野山の尾根に浮かぶ蔵王堂／金峯山寺蔵王堂の正面／宮滝——万葉に歌われた聖地——／水分神社——道長が詣で、本居宣長が申し子——／妹背山——王髻と柏木——

5 春日大社——藤原氏の神——

春日大社池苑での迦陵頻／春日大社の中門と御廊／春日大社の立楠／『延喜式』に見える御棚神饌／王朝の菓子をまじえた御戸開八種神饌

6 葛城の神と澤標——修験の山と淀の流れ——

金剛山葛木神社——王朝の葛城の神——／葛城一言主神社／難波宮があったとされる大阪城附近／堂島川にかかる田養橋／新淀川の川口方向

7 住吉大社——源氏と明石一族の加護——

夏越祓の人形唐櫃／飯匙堀で唐櫃の中の人形を祓う／住吉大社神殿／男踏歌を継承する踏歌神事／白馬節会を継承する白馬神事

8 須磨——光源氏流謫の地——

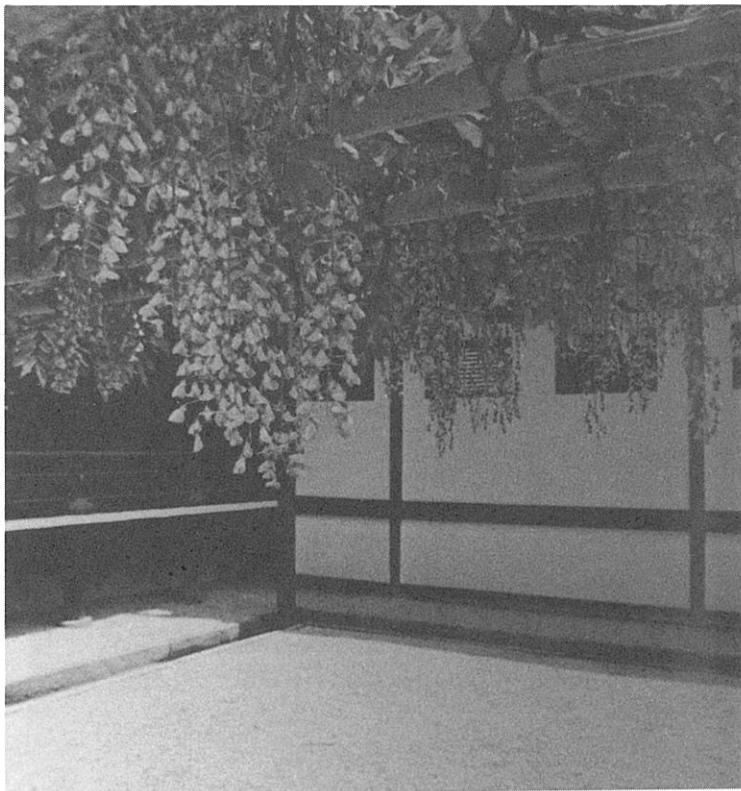
須磨の閑跡と伝えられる関守稻荷神社／須磨の海辺／須磨の閑跡に建つ源兼昌歌碑／松風村雨堂——行平中納言の住まい跡——／平安初期開基の真言宗須磨寺派本山・須磨寺

9 明石——雅趣豊かな海辺生活——

「明石の門」としての明石と淡路島、それに大阪南部の海岸線／人丸山から望む淡路島／古代の明石駅伝承地「菅公旅次遺跡」／道真没後明石駅長が祀ったという菅公腰掛石／太寺廃寺跡高家寺で出土した平安前期の軒丸瓦

地 図（源氏物語の空間・京都付近・平安京と京都市・大内裏の図・内裏の図・清涼殿図・朱

雀大路周辺の現在・嵯峨野・宇治）



京都御所藤壺

と見えたり。(桐壺)
と描かれるように、かえつて他の后達の御局の御前を通る結果になる。それがこれらの后達にとっては目障りで、高貴な身の上を忘れて嫉妬に狂い、耐えられないような仕打ちに走るのであった。それで帝は更衣に「上局」即ち清涼殿の中の控えの間を賜る。光源氏という稀有の皇子をもうけたものの、ますます苦渋の日々となってしまう。この心労が重なりあまりにも短い一生を閉じるが、そうした悲劇の予感が桐壺の更衣という名に秘められているといえ

1 後宮——玉の輿の女君たち——

いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。

という語り出しで、五十四帖の嚆矢・桐壺の巻が幕を開く。その舞台は華麗な内裏である。

この内裏は今日の京都市内の位置で言えば、上京区浄福寺通と出水通が交差するあたりを中心とする地域ということになる。その西には平安京における朱雀大路の道筋にあたる、千本通が南北に走っている。現在の京都御所よりかなり西に位置する。内裏は天皇の日常の生活空間であったが、しだいに紫宸殿・清涼殿を中心に政の場としての重きが置かれるようになる。当然、王朝文学の舞台になってくる。『源氏物語』においても絢爛たる世界を展開している。

帝の寵愛を一身に集めている桐壺の更衣は、

御局は桐壺なり。

(桐壺の巻)

に象徴される境遇でもあった。この局の正式な名称は淑景舎で、後宮における五舎の一つで、その局即ち中庭に桐が植えてあったことによるものである。ただその位置が、内裏の東北隅にあり、帝の住まう清涼殿から最も遠い後宮の局であった。王朝人にとってはその名を見聞きするだけで、住まう後の身の上が偲ばれたことであつたらう。それが、

あまたの御方々を過ぎさせ給ひて、ひまなき御前渡りに、人の御心を尽くし給ふもげにことわり